

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02502

研究課題名(和文) ヨーロッパのアメリカ人による文化概念の諸相

研究課題名(英文) Representations of Culture by American Expatriates in Europe

研究代表者

齊藤 園子 (Saito, Sonoko)

北九州市立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：70390466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：在欧経験を持つアメリカ人作家の作品に表れる文化概念をポストコロニアル理論や文化的アイデンティティの概念を援用して考究した。"expatriate"と呼ばれる在欧アメリカ人の「文化の中間者」としての位置取りや、文化の境界の攪乱を伴いながら関係性の中で文化概念が動的に構築される過程について解明を進めることができた。論文や学会発表による成果報告に加えて、国際研究集会の開催や公開講座、本研究に関係するHenry Jamesによる最初期の小説の本邦初訳を通じて成果の社会還元を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

在欧アメリカ人がヨーロッパの国際都市において、現地の人々や同国人との関係性の中で独自の文化的アイデンティティを構築するとともに、文化概念そのものを問い直し、その再構築を試みていることを明らかにすることができた。合わせて、その中間的あり方に米国の移住者植民地としての経験が刻まれていることを確認できたことは意義深い。グローバル化社会におけるコミュニティと個人のあり方に通じる要素の考究も進展させることができた。

研究成果の概要(英文)：This research project has focused on works by American expatriate writers and explored the notions of culture and cultural identity in these works, drawing on postcolonial theory and the concept of cultural identity. The research has served to clarify their location as being in "in-between" spaces as well as ways in which their notions of culture are shaped and constructed in relation to and negotiation with others. The results of this research have been shared through academic conferences and journal submissions. In addition, an international workshop was organized with participation of a guest speaker from abroad and the first Japanese translation of one of Henry James's earliest novels, which explores a project-relevant theme, was completed and published.

研究分野：英語圏文学

キーワード：文化的アイデンティティ 文化表象 在欧アメリカ人 expatriate 移住植民地 文化の中間者 グローバリゼーション コミュニティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

アメリカ作家の在欧経験に基づく執筆物には、従来の概念とは異なる独自の文化概念が記録されているように思われる。滞在場所、目的、期間、形態は異なっても、在欧経験を持つアメリカ作家の多くがその経験を作品や執筆物に題材として取り入れている。その中にはアメリカの文化的アイデンティティを問い直す作品や、文化概念そのものの再構築を試みる執筆物が見られる。T. S. Eliot の文化論も後者に該当するが、グローバル化社会の文化状況に通じる洞察が含まれており、今も影響力を持っている。しかし、在欧経験と文化概念の関係を体系的に解明する研究は見られないため考究の推進が必要と考えた。考究に際しては、アメリカ人がヨーロッパとの関係性において自己を捉え直す作業に、移住者植民地 (a settler colony) の被支配者としてのアメリカの経験が影響を与えている点に着目した。アメリカ文学がポストコロニアル社会の文学であるという認識の重要性には、*The Empire Writes Back* (1989) や、Peter Hulme、Lawrence Buell らが着目してきたが、認識の共有は限定的である。ポストコロニアル理論がアメリカ文学史の主流に位置づけられてきた作家や作品の分析に適用されることはいまだに少なく、考究自体も十分に展開されてきたとは言えない。しかし被支配者としての経験はアメリカの文化的アイデンティティの構築に決定的な役割を果たしている。作品に表れる多様な文化概念のあり方に繊細かつダイナミックに迫るために、分析にはポストコロニアル理論を援用することとした。

2. 研究の目的

本研究は、アメリカ作家の在欧経験に基づく執筆物に見られる多様な文化概念を体系的に捉えることを目指す研究である。長期的に取り組む研究課題として発展研究を視野に入れた基盤研究と位置づけ、特に 19 世紀後半から 20 世紀初頭における “expatriate” と呼ばれるアメリカ人作家の渡欧経験を扱う作品に焦点をあてる。イギリスに帰化した Henry James や Eliot をはじめ、アメリカン・ルネサンスやアメリカン・リアリズム、ロストジェネレーションと呼ばれる世代の作家や作品が主な考察の対象となる。「文化の中間者」による文化概念の系譜と合わせて、移住者植民地の被支配者としての経験がアメリカ文学に及ぼしてきた影響についても考察を進める。また、長年文学史の主流に位置づけられてきた作家や作品の再考という側面からは、正典や文学史の再考としての意義が認められる。さらに発展研究の方向性の特定や、グローバル化社会における文化の現状と展望に関わる考究に接続する点でも有意義である。

3. 研究の方法

作品における文化表象の分析は、特定のモチーフが、テキストに加えてイラストやその他の要素を伴って紙面上に登場する形態を研究しながら実施する。米国や在欧アメリカ人の逗留先において関係資料の収集を行い、作品が出版当時に実際に流通した形態を比較・調査する。また当時の渡欧者や作家の在欧生活の実態に関わる実証的な資料の調査や現地における実態調査を並行して実施する。作品における文化表象の分析には、ポストコロニアル理論における「中間領域 (in-between space)」、「模倣 (mimicry)」、「異種混濁性 (hybridity)」といった概念や、カルチュラル・スタディーズにおける文化的アイデンティティの概念を援用する。

4. 研究成果

ポストコロニアル理論や文化的アイデンティティの概念を援用して在欧経験を持つアメリカ人作家の作品に表れる文化概念を研究した。各作家による違いに留意しながら、“expatriate” の「文化の中間者」としての位置取りや、文化の境界の修正や攪乱を伴いながら関係性の中で文化概念が動的に構築される過程について解明を進めた。研究成果は、(1) 著書の出版 (2) 学術誌への論文投稿 (3) 学会発表 (4) 国際研究集会の開催等を通じて社会還元を図った。(5) 発展的な研究への接続 (6) 研究ネットワークの拡充も成果の一部である。

(1) 本研究課題に関わり、単著 (翻訳書) として、Henry James による最初期の小説 (原題: *Watch and Ward*) の本邦初訳『後見人と被後見人』(大阪教育図書、2019 年)を、解説、訳注、写真資料を付して出版した。関係の作家や作品、主題の研究に貢献する成果として評価できる。また James 没後百年を迎えた 2016 年に国内の研究者と共著『ヘンリー・ジェームズ、“いま” 没後百年記念論集』(英宝社、2016 年)を刊行し、幽霊表象を語りと作品のアイデンティティという観点から分析した論考を発表した。

(2) 国際論集の論文として、James 作品における幽霊と分身を、ポケット表象と富の関係に着目して考察した論文が、2017 年に査読を経て海外の研究誌に掲載された。また 2019 年に開催された国際学会における発表内容を拡充して論文を執筆し、査読を経て、当該国際学会論集に掲載されることになっている。在欧作家が言語と伝統の継承に関わる諸問題を考察した評論を扱った研究である。国内の学術誌では、James の中編 *In the Cage* を扱い、グローバル化社会におけるコミュニケーションの問題に通じる議論を展開した論文が査読を経て 2019 年に日本ア

リカ文学会の全国誌に掲載された。またグローバルに展開されてきた英語版ミュージカル *Les Misérables* の受容について、作品の英米仏を横断する文化的アイデンティティのあり方に着目する論文が、査読を経て、日本アメリカ演劇学会の学会誌に掲載されることになっている。合わせて、2017年に日本アメリカ演劇学会第7回大会のシンポジウムで発表した内容に基づき、James 作品 *The American* (1877) におけるアメリカ人表象が、小説の改訂や戯曲への改作を経て変容していることを指摘する論文を所属大学の紀要に投稿した。

(3) 国内外の研究集会において研究成果を発表した。2016年には大英図書館で開催された国際学会において James 作品に対する Shakespeare や Nathaniel Hawthorne の影響の可能性を議論する研究を、またブランダイス大学（米国）で開催された国際学会においては、James の初期・中期の在欧アメリカ人を扱う作品を作者と読者の関係から読み解く研究を発表した。また2017年に延世大学校（韓国）で行われた国際学会では、新旧大陸を行き来するアメリカ人登場人物と作家自身の文化的アイデンティティのあり方が、グローバル化社会における主体のあり方に通底していることを指摘する発表を行った。2019年に開催された国際学会で発表した研究については、内容を拡充した論文が、査読を経て学会論集に掲載される。国内では2016年に日本英文学会九州支部大会において、書簡を共通項とするシンポジウムを企画・開催した。2017年には日本アメリカ演劇学会の年次大会において、James と William Faulkner の劇作に焦点をあてるシンポジウムに登壇した。合わせて日本アメリカ文学会の全国大会において、海外の研究者を招致して開催されたワークショップの司会を担当した。2018年には James 作品を中心に扱う研究集会において、当該ワークショップの報告を兼ねてアフェクト理論に関わる話題提供を行った。2019年には九州アメリカ文学会年次大会および日本アメリカ文学会全国大会において口頭発表を行い、意見交換をもとに研究の精緻化を図った。また2019年度までの研究成果を踏まえて発展的な研究の方向性をより正確に特定することを目指して、2020年の日本英文学会全国大会における研究発表を計画して準備を進めた。学会はウェブカンファレンスとして開催された。本発表の概要は大会 Proceedings に公開されている。

(4) 2018年度に米国の研究者を迎えた国際研究集会を企画し、関係の学会や研究会と共催した。研究集会では司会を務めた。米国の研究者から人新世（Anthropocene）の知見を踏まえた文学作品や映像作品の分析が共有され、活発な意見交換が行われた。

(5) 本研究の成果は研究代表者による発展的な研究に接続されている。関連する研究について2021年5月に日本英文学会第93回全国大会においてオンラインで口頭発表を行った。アメリカ人の在欧経験において「アメリカン・コロニー」と呼ばれる同国人コミュニティが果たす役割に着目する研究である。在欧アメリカ人がヨーロッパで経験する違和感や葛藤の原因が、「文化の中間領域」としてのこの共同体の、故郷と「似ているが異なる」性格にある可能性を指摘した。

(6) 本研究を通じて研究代表者独自の研究ネットワークを拡充することができた。このネットワークに基づく協力関係は、本研究代表者の発展的な研究に生かされるとともに、関連分野の他の研究者にも資するものとなることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Sonoko Saito	4. 巻 -
2. 論文標題 Imitation and the Construction of Tradition: Henry James and the Representation of the American Voice	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Edited Volume from The Trieste Henry James Society Conference “The Sound of James: The Aural Dimension in Henry James’s Work”（仮題）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齊藤園子	4. 巻 32
2. 論文標題 「革命」の影響と変容 ミュージカル『レ・ミゼラブル』の文化的アイデンティティに関わる一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アメリカ演劇	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤 園子	4. 巻 -
2. 論文標題 Henry James によるおとぎ話の書き換え Watch and Ward におけるマリッジ・プロット	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本英文学会第92回大会Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SAITO, Sonoko	4. 巻 17
2. 論文標題 The Figure In the Cage: Reader and Writer in Henry James	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the American Literature Society of Japan	6. 最初と最後の頁 55-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20687/englishalsj.2018.17_55	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齊藤園子	4. 巻 149
2. 論文標題 喜劇のアメリカ人 ヘンリー・ジェイムズの『アメリカ人』の小説と戯曲をめぐるトランスナショナルな葛藤	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北九州市立大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 29-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤園子	4. 巻 -
2. 論文標題 書簡から見るHenry Jamesのローマ 在欧アメリカ人によるヨーロッパ表象	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本英文学会第89回大会Proceedings	6. 最初と最後の頁 327-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sonoko Saito	4. 巻 -
2. 論文標題 An Italian Influence on Young Henry James	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings: Jamesian Cultural Anxiety in the East and in the West	6. 最初と最後の頁 226-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sonoko Saito	4. 巻 1.21
2. 論文標題 The Materiality of Ghosts in The Bench of Desolation: An Exploration of the Pocket Metaphor	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Litteraria Copernicana	6. 最初と最後の頁 61-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12775/LC.2017.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 Henry Jamesの国際テーマの作品における「アメリカン・コロニー」の役割
3. 学会等名 日本英文学会第93回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 ヘンリー・ジェイムズの『後見人と被後見人』におけるローマ
3. 学会等名 北九州市立大学公開講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 Henry James によるおとぎ話の書き換え Watch and Ward におけるマリッジ・プロット
3. 学会等名 日本英文学会第92回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 Henry JamesのWatch and Wardにおける作者と読者の原風景
3. 学会等名 日本アメリカ文学会第58回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 「革命」の影響 Les Miserablesの受容に関わる一考察
3. 学会等名 日本アメリカ演劇学会第9回大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sonoko Saito
2. 発表標題 The Construction of Tradition through Imitation: Representing the American Voice
3. 学会等名 Henry James Society International Conference at the University of Trieste (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 Henry JamesのWatch and Ward 雑誌掲載作品と単行本作品の相違に関わる一考察
3. 学会等名 九州アメリカ文学会第65回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 国際研究交流報告 アフェクト理論
3. 学会等名 第8回ヘンリー・ジェイムズ研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 ヘンリー・ジェイムズのニューヨーク版作品集
3. 学会等名 北九州市立大学公開講座
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sonoko Saito
2. 発表標題 An Italian Influence on Young Henry James
3. 学会等名 Henry James Society International Conference at Yonsei University (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 喜劇のアメリカ人 The Americanの小説と劇作をめぐる葛藤
3. 学会等名 日本アメリカ演劇学会第7回大会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jane F. Thrailkill, Noriko Sunagawa, Wayne E. Arnold, Sonoko Saito (moderator)
2. 発表標題 American Literature and Neuroscience
3. 学会等名 The 56th National Conference of the American Literature Society of Japan ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齊藤 園子
2. 発表標題 書簡から見るHenry Jamesのローマ 在欧アメリカ人によるヨーロッパ表象
3. 学会等名 日本英文学会九州支部第69回大会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sonoko Saito
2. 発表標題 Watch and Ward and a "Publishing Scoundrel"
3. 学会等名 Henry James Society International Conference at Brandeis University (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sonoko Saito
2. 発表標題 Aminadab in "The Jolly Corner"
3. 学会等名 The British Library Henry James Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 ヘンリー・ジェイムズ著、齊藤園子訳・解説	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪教育図書	5. 総ページ数 255
3. 書名 後見人と被後見人	

1. 著者名 里見繁美、中村善雄、難波江仁美、行方昭夫、北原妙子、中井誠一、名本達也、中川優子、水野尚之、齊藤園子、松井一馬、畑江里美、砂川典子、石塚則子、町田みどり、松浦恵美、堤千佳子、志水智子、海老根静江、福田敬子、別府恵子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 411 (97-116)
3. 書名 ヘンリー・ジェイムズ、“いま” 没後百年記念論集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Official Worlds in American Literature	開催年 2018年～2018年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------